

『小水力発電全国大会in金沢』 実施報告

平成28年12月28日

公 営 電 気 事 業 経 営 者 会 議
大口自家発電施設者懇話会 水力発電委員会
全 国 小 水 力 利 用 推 進 協 議 会
水 力 発 電 事 業 懇 話 会

●平成28年12月2日(金)15:25～16:25(於:金沢市文化ホール) 事例報告「水力発電事業団体等の事業」

1. 大口自家発電施設者懇話会水力発電委員会の紹介

大口自家発電施設者懇話会水力発電委員長 JNC(株) 荒巻 俊毅

2. 金沢市の発電事業について

金沢市企業局上水・発電課発電管理センター 所長 中野 博之

金沢市企業局上水・発電課発電管理センター 係長 出嶋 由紀夫

3. 公営電気事業者による水力開発

公営電気事業経営者会議 事務局長 浅見 正和

4. 水力開発の現状について

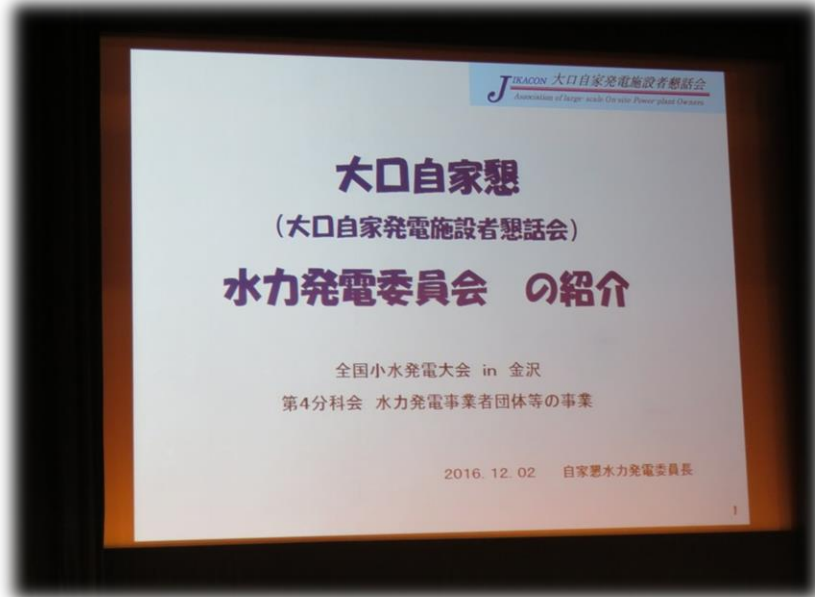
水力発電事業懇話会 事務局 東京発電(株) 相沢 成樹

●平成28年12月3日(土)9:00～16:30(水力発電所見学) 金沢市企業局「新辰巳発電所」～富山県企業局「庄発電所」～ 北陸電力「薄島発電所」

事例報告「水力発電事業団体等の事業」

2

1. 大口自家発電施設者懇話会水力発電委員会報告



事例報告「水力発電事業団体等の事業」

3

2. 金沢市企業局報告

金沢市の発電事業について

防災と防災のサービスセンター

金沢市企業局

上水・発電課 発電管理センター
施設運転係長 出嶋 由紀夫



事例報告「水力発電事業団体等の事業」

4

3. 公営電気事業経営者会議報告



4. 水力発電事業懇話会報告

Sul
kon

水力開発の現状について

水力発電事業懇話会 事務局
(東京発電株式会社)
相沢 成樹



事例報告「水力発電事業団体等の事業」

6

ディスカッション



進行：富山県小水力利用推進協議会会長
上坂博亨

大口自家発電施設者懇話会水力発電委員会



公営電気事業経営者会議



水力発電事業懇話会



水力発電所見学

7

金沢市企業局 新辰巳発電所



項目	諸元
水系	犀川水系犀川
発電所形式・運用方法	水路式
使用水量	10.4m ³ /s
有効落差	72.86m
出力	6,200kW
発電開始	1971(昭和46)年3月

水力発電所見学

金沢市企業局 新辰巳発電所

石川県の水力発電発祥の地 辰巳発電所

【辰巳発電所から新辰巳発電所へ】

明治33年6月、金沢電気株式会社により、寺津用水を利用した最大出力240kWの辰巳発電所の運転が開始され、石川県の家庭に初めて電灯がつけました。大正10年には、急激な需要の増加に加え不況の深刻化により電気事業とともに辰巳発電所は、金沢市に譲渡されました。第二次世界大戦により一旦は国営化されましたが、戦後公営電気事業復元に取り組むなか、犀川総合開発計画の一つとして昭和38年1月に金沢市の電気事業が許可され、ここに全国で唯一の市営電気事業者が誕生したのです。

また、その開発計画にある上水道取水方法の見直しにより、辰巳発電所は新辰巳発電所として大きく生まれ変わりました。

この新辰巳発電所は、平成26年12月に最大出力を6,200kWに増強し、これからもクリーンな水力エネルギーを金沢市の家庭へ送り続けます。



辰巳発電所（明治33年運転開始～昭和44年廃止）
最大出力：900kW（大正5年以降） 水路延長：6,298.2m
使用水量：2.23m³/秒 有効落差：61.52m



水力発電所見学

9

富山県企業局 庄発電所



項目	諸元
水系	庄川水系庄川右岸幹線用水(農業用水利用)
発電所形式・運用方法	水路式
使用水量	5.4m ³ /s
有効落差	4.55m
出力	190kW
発電開始	2012(平成24)年10月

水力発電所見学

富山県企業局 庄発電所

10



水力発電所見学

北陸電力 薄島発電所



項目	諸元
水系	神通川水系神通川(牛ヶ首用水を利用)
発電所形式・運用方法	水路式・流込み式
使用水量	52.310m ³ /s
有効落差	12.00m
出力	5,000kW
発電開始	1937(昭和12)年1月

水力発電所見学

北陸電力 薄島発電所

12



END